

## 建設産業委員会会議録

令和3年8月16日（月）

午後13時30分 開会

○沢田清委員長

ただいまから、建設産業委員会を開会します。協議題1 閉会中の調査事項についてを議題とします。まず、当局の説明の前に、資料配布したフロー図をご覧ください。これは、ゼロカーボンについて、市民に協力を得るためには、どのようなプロセスを踏むべきかを整理したものです。少し説明をします。ゼロカーボンを進める理由として、人に言われて動くのではなく、自分たちのために動くんだという意識を持ってもらうこと、そこで初めて市民に協力を得られるのではないかとということで、そこでゼロカーボンの意味を理解してもらい、そこから、普段の生活でできることを考えてもらう、また行政がどういった支援ができるのか、その支援を利用しながら、市民が行動をすることで、初めてゼロカーボンシティの第一歩になるということで、それを踏まえて進められたら良いと思います。それでは、当局の説明を求めます。

○門田和博環境課長

【資料に基づき説明】

○沢田清委員長

説明は終わりました。ただいまから質疑に入ります。ご質疑ありませんか。

○中村和也委員

先ほどご説明いただいた、基本計画策定時の資料で、二酸化炭素排出の計算式ですが、吸収量は数字が小さいということですが、我々の努力はどこで評価されるかというのは、どう考えればよろしいでしょうか。というのも、今後市民の方に協力をお願いしていくにあたり、苦労だけを強いて、何も結果が見えないというのでは、誰も動けない、または動いてもすぐに終わってしまうのではないかと思います。いかがでしょうか。

○門田和博環境課長

例えば、市民の中から一部を抽出して、抽出した市民にアンケートを取り、そこから得たデータをベースに推計をし、数値を出すということが考えられます。電気の使用量については、先日中部電力の方にお聞きしたところ、半田市だけの数値は出せない、ましてや個人の成果はもっと難しいとのことでした。一番詳細なデータをもらっても、どこまで行っても最後は案分

した数字しかわからないので、可能な限りで評価するしかないかなと思っています。

○中村和也委員

抽象的な数値でもいいので、何か効果が把握できるような数値があるといいと思っています。次に、吸収力について、杉の木をサンプルに算出されていますが、半田市には杉の木はないと思いますが、杉の木をサンプルとするのは適正なのでしょうか。

○門田和博環境課長

杉は成長が早いので、1年間に吸収する二酸化炭素の量も多いと思います。日本全体でみると杉の木は多いので、杉の木がサンプルとして出てきてしまう現状です。杉以外のサンプルは、見つかりませんでした。詳しく調べれば、出てくる可能性はあります。

○沢田清委員長

後で、改めて環境課に対する質問は聞きますので、グリーンセンターの説明に移ります。

○加藤明弘グリーンセンター所長

【資料に基づき説明】

○沢田清委員長

説明は終わりました。ご質疑ありませんか。

○山本半治委員

1人当たりのごみ減量が473グラムということですが、これは最初の目標と比べるとかなり数値が減っていますが、なぜですか。

○加藤明弘グリーンセンター所長

当初は508グラムを目標として来年3月の数値でこれを達成できるよう、目標としており、現状ではかなり減量が進んでいます。このまま、目標値を上回る実績を維持し、3月に目標を達成したいと思っています。

○山本半治委員

次年度、新しいごみステーションができますが、少しでもごみの量を減らせば、半田市の負担金も減るという理解でよろしいでしょうか。

○加藤明弘クリーンセンター所長

他市町との状況にもよりますが、当初計画していた予算から減ることになると思います。

○中川健一副委員長

紙製容器包装やペットボトルの分別実績について、ごみ処理有料化後に増えているので成果があったということですが、ペットボトルに関して 7 月は数値が減っているが、これは期間が昨年と違うのか、理由をどのように分析していますか。

○加藤明弘クリーンセンター所長

期間は月末までのデータを比較していますので、結果については驚いています。原因として考えたのは、ペットボトルを配布する会議の減少や、外出の減少ですが、6 月は 10 トンほど増加しており、明確な原因は不明です。ただ、少なくともペットボトルの製品が減少しているのは原因の 1 つかなと思います。

○沢田清委員長

他にありますか。

○新美保博委員

全体的にごみが減少した原因をどのように考えていますか。

○加藤明弘クリーンセンター所長

期待的観測でいいますと、説明会や PR によって市民のごみ減量に対する意識が上がったと思いたいますが、やはりごみ袋有料化にかかる経済的なインセンティブが働いたのだと思います。

○新美保博委員

市民の努力が成果として表れたときに、市民への還元を考えていますか。

○加藤明弘クリーンセンター所長

市民の皆様には、何らかの形で還元をすべきであると考えていますが、すこし経過を見ていく必要があると思います。

○新美保博委員

ゼロカーボンは、吸収がほとんどゼロであるので、排出量をどれだけ減らしても達成することは難しいのではないかと考えています。CO<sub>2</sub> を出さないということは火を使わない生活をするということであると思います。そんな生活はありえないと思います。であれば、何ができるかというごみの減量です。

○出口久浩市民経済部長

今回、ゼロカーボン半田ビジョンを作成するにあたり、12月15日の全員協議会で、パブリックコメントを取るうえで事前に報告したいと考えています。その前に建設産業委員会の皆様には、素案についてご説明させていただき、ご意見があれば、反映した形で15日の全員協議会で報告させていただき、本日このような場を設けていただきました。今後のスケジュールについてですが、本日ここで説明をさせていただいたのち、12月6日に庁内のプロジェクト会議で最終的なまとめを行い、12月13日にゼロカーボンシティ半田ビジョン策定委員会で最終的な承認を得て、14日の幹部会で承認を得たのち、15日の全員協議会でご説明させていただき、16日から1月4日まで、パブリックコメントを実施いたします。そののち、その意見を反映して、1月上旬に庁内のプロジェクト会議と、ゼロカーボンシティ半田ビジョン策定委員会に諮ったのち、印刷して製本します。1月31日には終えるという流れで進んでおります。1月31日に終えるのは、9月の補正予算審査時にもご説明させていただいた通り、国の補助金を利用している都合上、1月末までに支払いまでを済ませる必要があるという関係で、今回タイトな日程で進んでおります。今回は、素案ということで中間報告として説明させていただきます。報告については、環境課長から説明させます。

○門田和博環境課長

【ゼロカーボンシティ半田ビジョンについて説明】

○沢田清委員長

説明は終わりました。ご質問ありませんか。

○中村和也委員

24ページのシナリオ編の年表にビオぐるファクトリーHANDAの稼働とありますが、半田バイオマス発電所等は載せないのでしょうか。

○門田和博環境課長

この表に記載しているのは、半田市が関わった取り組みについてでして、ビオぐるファクトリー HANDA は、補助金やバイオマス都市構想の中に位置づけられているものですので、ここに記載しています。記載のない施設については、民間の事業所の方が行ったということで、記載していません。

○中村和也委員

半田市が関わったかどうか、ポイントだということがわかりました。ほかの業者の方も思いがあってやられていることなので、うちだけ載っていないということのないよう、理由だけしっかりしていただければよいと思います。

○新美保博委員

48 ページの CO2 削減のなりゆきのシナリオを見ると 2013 年度比で 15 パーセント、2050 年には 17 パーセント減少すると想定しているとされています。何もしないとこの程度しか下がらないということだと思いますが、そこで取り組みを行った場合のシナリオを見ると 2030 年には 45 パーセントの削減、2050 年には、実質 0 となっています。実質 0 を目指すということは、どういうことですか。

○出口久浩市民経済部長

50 ページの下の表を見ていただくと 2050 年にエネルギー消費量が 6,869TJ で、再エネ導入量が 4318TJ でこれを相殺すると、まだ 2500 ほど残るんですが、足りない部分は、水素や合成燃料などのカーボンニュートラル燃料への変換などで、その部分は賄えるだろうということで、最終的に 0 になるだろうという試算です。

○新美保博委員

このビジョンには、何をやればよいか書かれていません。産業部門が 64 パーセントの比率を占めるのであれば、産業部門には手を打っていく必要がありますが、家庭部門は 15 パーセントということに対して、半田市は市民の方にどれだけの協力をもらうかに関わるのが重要であるのに、そのことが一言も書かれていません。今は太陽光発電を付けても赤字になると推測していますが、市民はそれでもやってくれるのでしょうか。パブコメでどんな意見が書けるのでしょうか。

○出口久浩市民経済部長

何をやったらいいのかが国のほうで見えていない中で、ビジョンを作れということで、国のほうから降りてきている状況です。そのなかで、市として何をすべきかということがビジョンにはわかりやすく示されています。具体例でいうと、太陽光パネルの設置や食品ロスの低減、家庭でのコンポストの設置、3R など普段の暮らしの中での取り組みがゼロカーボンにつながっていくということが、示されています。30 ページを見ていただくと、ZEH といった断熱性の高い住宅に切り替えていただきたとか、その工場や事業所版を ZEB といいます。こういったことにより、省エネにつながっていくことが示されています。また、移動については、出かけるときは徒歩や自転車、公共交通機関を使うことで省エネになるとうたっています。こういったことを進めることで、最終的にはゼロを目指していく目安となるものを示すものです。

#### ○新美保博委員

ビジョンがあって何の意味があるのでしょうか。問題はわかっているから、ここにわざわざ記載される必要はありません。太陽光にしても、つけることで損することが分かっている、行政の補助もなく、普及していくとは到底思えません。

#### ○中川健一委員

29 ページに書かれているようなことは、大なり小なりもうすでに市民はやっていると思います。だから、条例を作って強制的に市民に取り組みさせるなどすべきだと思います。本当にやるなら、里山や緑地を守る補助金を作るとか、そういう具体的な政策まで落とし込んであれば、ビジョンが必要かは疑問ですが、ゼロカーボンに向けた具体的な税金を使った施策展開が見えてきますが、絵だけ描いて、市が税金を使って行う施策の具体的な提示が全くないので、絵に描いた餅であるといわれてしまうのではないのでしょうか。

#### ○出口久浩市民経済部長

想定される行政の取り組みとして、公共施設の再生可能エネルギーの導入、可能であれば公共施設の屋根の太陽光の増設や、環境配慮住宅の購入助成などを行政としてはやっていきたいと考えています。行政がやる部分については公費を伴うものなので、ビジョンに反映しづらい部分ですが、それでは、市民に示しがつかないので、今やっていないことも含めて、極力行政でできることを記載しています。市民の方がいろんな取り組みを既にやっていただいているということは重々承知ですが、それがゼロカーボンにつながることをあえて再度啓発することで、認識していただくことが大事であると考えています。そういったことも含めて、ビジョンの中で提言をして行きたいと考えています。

#### ○中川健一委員

市民に対しては、啓発という上から目線ではいけないと思いますので、役所側がもっと取り組みを強化する必要があると思います。

○新美保博委員

緑のカーテンや生ごみ乾燥機を職員がどの程度取り組んでいるのか調べてください。また、できなかった場合の責任の所在も明記していただければ、少しは意味があるのかなと思います。

○水野直美委員

経済を回していこうとするときに、今ある服を長く着ようということは、要は買うなということになると思いますが、そうなってきたときに、困る人が出てくるので、文言や、内容を精査していただければと思います。また、カテゴリについても正しいのか疑問であるので精査していただきたいです。

○新美保博委員

今までパブコメの前に議会の意見を聞いてくれたことはないので、画期的な会議であったと考えています。だから、もう少ししっかりした内容でないと、パブコメで何も書けないといっています。これでは内容が足りないと思います。

○沢田清委員長

本日の会議の内容を取り入れて、ぜひビジョンに活かしていただきたいと思います。以上で建設産業委員会を閉会します。

閉会 午前9時55分